

# 日本民俗学会 第76回年会（於・東京都）

## 第3回 サークュラー

### 1. 大会概要

- 主催 一般社団法人 日本民俗学会  
共催 國學院大學研究開発推進機構  
期日 2024年10月26日（土）・27日（日）  
会場 國學院大學 渋谷キャンパス（東京都渋谷区東4丁目10番28号）

### 会場アクセス

最寄駅 渋谷駅（JR・東京メトロ・東急・京王線 各線）

最寄駅より

- ・徒歩の場合 約15分 下記の地図をご参照ください
- ・都営バス利用の場合 渋谷駅東口54番のりば「学03」系統

「日赤医療センター前」行乗車

乗車時間約10分「国学院大学前」停留所 下車 徒歩0分



※アクセスの詳細は、國學院大學・東京都交通局のウェブサイトもご参照ください。

國學院大學 — アクセス <https://www.kokugakuin.ac.jp/access>

東京都交通局 — 渋谷駅 <https://www.kotsu.metro.tokyo.jp/bus/noriba/shibuya.html>



國學院大學 — アクセス



東京都交通局 — 渋谷駅

## 2. 大会プログラム

<b>10月26日（土）</b>	<b>公開シンポジウム・授賞式・総会・懇親会</b>
11：30～	受付開始（学術メディアセンター（AMC）1階）
12：30～15：30	公開シンポジウム（学術メディアセンター（AMC）1階 常磐松ホール他） 「祭り・芸能をめぐる現代的課題」
16：00～17：50	研究奨励賞授賞式、会員総会 （学術メディアセンター（AMC）1階 常磐松ホール）
18：00～20：00	懇親会（若木タワー 18階 有栖川宮記念ホール他）

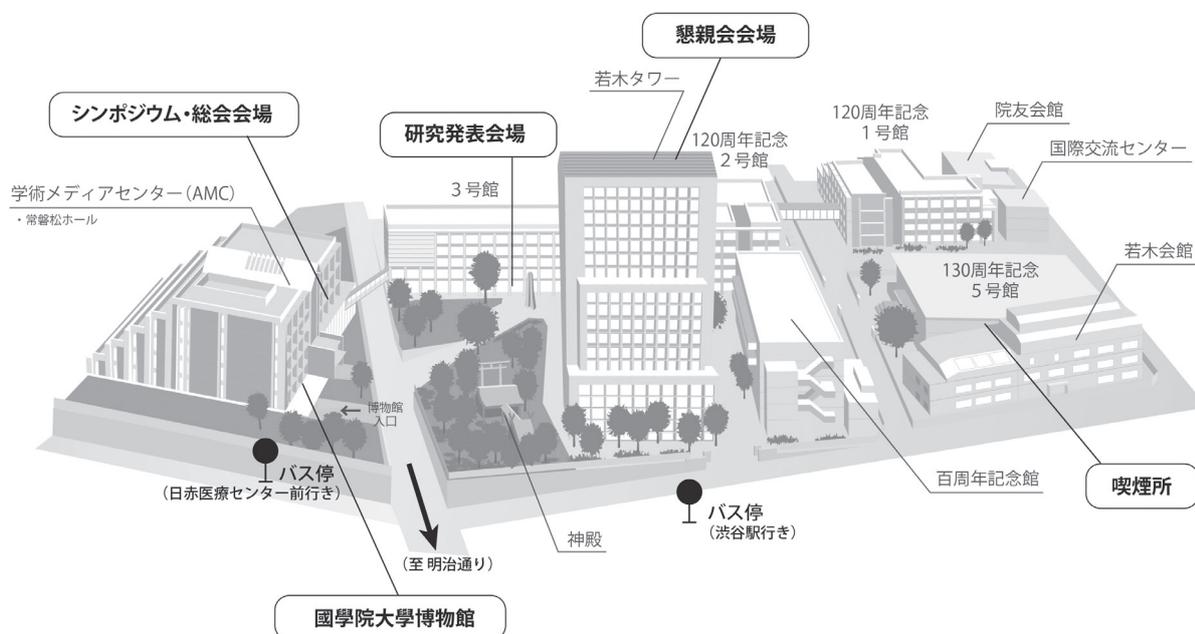
<b>10月27日（日）</b>	<b>研究発表</b>
9：00～	受付開始（学術メディアセンター（AMC）1階）
9：30～12：00	研究発表（3号館 3、4階）
12：00～13：00	休憩
13：00～16：00	研究発表（3号館 3、4階）

※プログラム内容は変更となる場合があります。

※今年度の年会は、見学会を企画しておりません。

※実行委員会では宿泊等の斡旋は行いません。

## 3. 会場案内図



### 3号館3階



### 3号館4階



## 4. 年会参加者の皆さまへ

### ①受付

- ・発表要旨集の購入を事前申し込みされた方は、受付にて1,000円をお支払いいただき、要旨集をお受け取りください。現金以外でのお支払いはできません。お釣りが出ないようにご準備ください。
- ・当日欠席になった場合でも、すでにお支払いいただいた年会参加費、懇親会参加費の返金はいたしかねます。

### ②名札

- ・会場では常時、名札をお付けください。名札には懇親会費の支払いについての記載があります。懇親会には、必ず名札を付けてご参加くださいますようお願い申し上げます。

### ③公開シンポジウム

- ・公開シンポジウム会場の常磐松ホールは、会員の事前申し込み者で満席となりました。そのため、当日参加の方は、サテライト会場での参加となります。サテライト会場までのご移動については受付でご案内いたします。

### ④懇親会

- ・懇親会は26日（土）18時より、若木タワー 18階 有栖川宮記念ホールにて行います。ただし、

収容人数の関係で、一部の方に別会場にご移動いただく場合もあります。ご移動をお願いする方には、事前にご案内申し上げます。

- ・懇親会場に入場するには名札を若木タワー1階受付のスタッフにご提示ください。
- ・懇親会の当日参加はできません。9月30日（月）までに納入していない場合には、懇親会の申込みを取り消させていただきます。
- ・懇親会の間、荷物置き場を近くに用意しますが、盗難・紛失・毀損などについて、実行委員会としては一切責任を負いかねます。貴重品は各自で保管をお願いいたします。

### ⑤休憩・昼食

- ・当日、会場での弁当の販売はいたしませんので、各自でご用意ください。渋谷駅から会場近辺にはコンビニエンスストア、スーパーマーケット、飲食店があります。大学内の学生食堂は、土曜日のみ営業しております（日曜日は休業）。
- ・キャンパス内の学術メディアセンター（AMC）1階、3号館4階等には飲み物の自動販売機がございます。また、27日（日）は休憩室を3号館4階の3406、3407、3408、3409教室に設けますのでご利用ください。

### ⑥書籍販売・頒布・研究活動等情報提供ブース

- ・以下のとおり、学術メディアセンター（AMC）1階に書籍販売・頒布・研究活動等情報提供ブースを設けます。

26日（土） 12：00～17：00

（シンポジウム閉会＝15：30）

27日（日） 9：30～16：30

（一般発表最終＝16：00）

- ・年会期間中は常時開場しています（懇親会中は閉鎖）。27日（日）は17：00に完全撤収となります。年会参加の皆様はチラシコーナーに自由にチラシ等を置いていただけますので、ぜひご活用ください。なお年会終了時に残ったチラシは事務局で処分いたします。



### ⑦國學院大學博物館の特集展示

- ・今回の年会の共催団体である國學院大學研究開発推進機構では、特集展示「國學院大學所蔵の祭祀儀礼の記録－井上家旧蔵資料・坪井洋文資料－」を開催します。井上頼寿と坪井洋文の資料から、祭祀儀礼にかかわる調査資料を中心に紹介します。会場は学術メディアセンター（AMC）地階の國學院大學博物館です。入館無料ですので、ぜひご観覧ください。

### ⑧託児室

- ・当日は託児室を3号館3階の3311教室に開設しておりますが、事前申し込みをされた方のみ

ご利用できます。当日の緊急連絡先は申込者にメールでお伝えします。

#### ⑨バリアフリー設備

- ・研究発表、懇親会の会場となる3号館、若木タワーにはエレベーターがあります。3号館については、エレベーターをご利用になる必要のある参加者のために、その他の参加者の方は階段での移動をお願いいたします。学術メディアセンター（AMC）にはスロープが設置されております。
- ・学術メディアセンター（AMC）1階、3号館B1・1階、若木タワーにB1・1階に多目的トイレがあります。

#### ⑩その他

- ・喫煙所は、5号館裏手にございます。それ以外の場所での喫煙はご遠慮ください。
- ・発表会場内では携帯電話・スマートフォン等での通話をご遠慮ください。
- ・会場内で何かご不明な点がございましたら、スタッフまでおたずねください。

## 5. 個人発表（課題セッション含）の皆さまへ

#### ①使用機材

- ・発表会場の各教室には、一律に以下の設備を用意します。
  - (1) HDMI ケーブル
  - (2) 備え付けプロジェクター
- ・PC使用の場合は各自でご持参ください。お手持ちのPCに（1）の接続端子があるかご確認ください。もしくは（1）に接続するアダプターを各自でご用意ください。
- ・設置されている機材は動画や音声の出力にあまり適していない会場もあります。
- ・実行委員会では事前のデータの預かりには対応いたしません。
- ・会場ではeduroamを用いたwifi接続が使用可能ですが、通信の安定性につきましては実行委員会では保証いたしません。オンライン環境を前提としたプレゼンテーションは各自の責任でお願いいたします。eduroam への接続方法等の詳細は、各自の所属機関でお尋ねください。

#### ②配布資料

- ・配布資料がある場合は、あらかじめ50部以上をご用意ください。
- ・実行委員会では配布資料の事前預かりおよび印刷には対応いたしません。またホチキス・ステープラー等の貸出も行っておりません。
- ・配布資料は、各会場入り口付近に長机を用意しますので、開始後はそちらに配置いたします。発表終了後もそのままにさせていただいてかまいませんが、会期後は処分いたします。

#### ③発表受付（27日）

- ・発表者は発表の30分前までに発表会場にて受付をお済ませください。その際、ご用意いただいた資料を会場スタッフにお渡しください。ただし、午前最初の発表者は9時15分までに、午後最初の発表者は12時45分までに会場受付をお済ませください。
- ・発表者は、直前の発表が始まるまでに発表会場の「次発表者席」に着席のうえ待機してください。

さい。ただし、午前最初の発表者は9時20分より、午後最初の発表者は12時50分より待機してください。

- ・午前中の発表者には9時から9時20分まで、午後の発表者には12時30分から12時50分まで、機器の動作確認のための時間を設けます。

#### ④発表時間

- ・発表20分・質疑応答5分とし、以下のようにベルで時間をお知らせします。終了時間は厳守していただくようお願いいたします。
  - 17分経過ベル1回（発表終了3分前）
  - 20分経過ベル2回（発表終了）
  - 25分経過ベル3回（質疑応答終了）
- ・発表者や座長の交代、聴講者の移動のため、各発表の間に5分の時間をとります。この時間は発表延長のための時間ではありませんのでご注意ください。
- ・発表者の責任により発表の開始が遅れた場合には定刻の範囲内で発表・質疑応答を行ってください。

## 6. グループ発表の皆さまへ

#### ①発表受付

- ・グループ発表の代表者はメンバーが揃ったことをご確認のうえ、発表予定時刻の15分前までに発表会場の受付をお済ませください。

#### ②発表時間

- ・グループ発表の時間枠は120分です。グループ発表には、座長・タイムキーパーは手配いたしません。進行、質問の受付、時間配分などの運営は決められた時間内で、各グループで自由に決めてください。
- ・終了時間の厳守をお願いいたします。

#### ③使用機材・配布資料

- ・使用機材と配布資料については、個人発表に準じますので、前項をご覧ください。

## 7. 座長の皆さまへ

- ・ご担当の発表が始まる30分前までに各会場スタッフにお申し出のうえ、10分前までに発表会場の「次座長席」にご着席ください。ただし、午前最初の座長の方は9時20分より、午後最初の座長の方は12時50分より待機してください。
- ・「5. 個人発表の皆さまへ ④発表時間」に記した時間どおりにタイムキーパーがベルを鳴らします。このベルを参考にして、発表が時間どおりに行われるようご配慮をお願いいたします。
- ・進行中に問題が生じた場合は、各会場スタッフへお申し付けください。

## 8. 欠席等の連絡について

- ・10月27日（日）に研究発表を予定している方で、欠席せざるをえなくなった場合には、すみやかに年会実行委員会（nenkai@fsjnet.jp）までご連絡ください。会場に掲示を出すとともに、座長にその旨を連絡いたします。
- ・同様に、座長を担当予定の方で、遅刻・欠席をせざるをえなくなった場合には、すみやかに上記実行委員会のアドレスにご連絡ください。
- ・発熱・咳等の体調不良の場合には、参加のキャンセルをご検討ください。
- ・欠席の連絡は随時受付いたしますが、遅くとも当日（10月27日）午前8時までにはメール連絡をお願いいたします。これを超過した場合、無届の欠席として扱います。

## 9. 公開シンポジウム

### 「祭り・芸能をめぐる現代的課題」

日時 10月26日（土）12:30～15:30

会場 学術メディアセンター（AMC）1階 常磐松ホール

### 趣旨説明

八木橋伸浩（東京都／玉川大学名誉教授）

### パネリスト報告

- 1：櫻井 弘人（長野県／國學院大學文学部兼任講師）  
報告タイトル「南信州における女性参加の実情と課題」
- 2：石垣 悟（千葉県／國學院大學観光まちづくり学部准教授）  
報告タイトル「祭りのなかの『子どもの祭り』」
- 3：矢島 妙子（東京都／明治大学 法と社会科学研究所 客員研究員）  
報告タイトル「祭り・イベント・芸能とツーリズム」

### 休憩

### コメント

- 1：須永 敬（福岡県／九州産業大学国際文化学部教授）
- 2：関沢まゆみ（神奈川県／国立歴史民俗博物館教授）
- 3：八木 透（京都府／佛教大学歴史学部教授）

司会：小林 稔（千葉県／國學院大學観光まちづくり学部教授）  
鈴木 明子（東京都／國學院大學文学部兼任講師）

## 祭り・芸能をめぐる現代的課題

### 趣旨説明

日本民俗学は、民俗の現場から課題を立上げ、その課題についての伝承実態とその仕組み、各地の比較研究に基づく地域差やその事象の歴史的推移・変遷などを明らかにしてきた。そこには社会・文化の推移のなかで、「民俗」とは何かという根源的な課題も存在するが、研究の目的については、現代もこれをもち続けている。

研究の基本は民俗の現場にあることから、今回のシンポジウムでは各地でその継承への取り組みが行われている祭り・芸能に焦点をあて、その現場がどのような課題を抱えているのか、論点の所在を明らかにすることを目的としたい。このことは一方では、現代社会が抱えている諸課題が、その祭り・芸能に映し出されているともいえる。たとえば従来、その斎行者が男性だけに限定されていた祭り・芸能において、女性参加を認めたり、促進したりしようという動きは、男女が自らの意思によって参画できる社会の実現、ジェンダー差の解消など現代社会が求める社会像の実現希求が映し出されているといえることができる。

祭り・芸能の現場には、このように当事者が内部から今後の継承等にむけた取り組みと、社会状況の反映による取り組み課題がいくつもあることが予測でき、シンポジウムではこうした動向を研究論点として確認し、提示したい。

今回提示する論点として以下の3課題を設定した。

1つ目の課題は「祭り・芸能への女性の参加」という視点である。少子高齢化が進むなかで、従来は参画できなかった女性の祭り・芸能への参加によって継承を凶ろうとする動きは全国各地にある。これは歴史過程で形成された女人禁制という制度の検証を踏まえる必要があるが、今回は祭り・芸能の現場からの提起ということで、こうした動きがある地域の実情を報告してもらい、課題としての論点を整理したいと考えている。これは、後継者確保だけでなく、現代社会の課題が映し出されている動向でもある。

2つ目の課題は「祭り・芸能における子ども祭りの創出」という視点である。祭り・芸能において子どもが何らかの役割を果たすことは古くから多く見られるが、これとは別に、たとえば「子ども神輿」のように、子どもに特化した内容を創出している例は少なくない。宮崎県の椎葉神楽や諸塚神楽などにおいては、子どもたちだけで舞う演目が特別に用意され、祭りの場に奉納されている。各地の山車祭りにおいても、従来はなかった子ども山車がつくられ、実際に引き回されている例もある。

3つ目の課題は「祭り・芸能とツーリズム」の視点である。祭り・芸能は、こうした視点にもとづいた文化資源化、就中観光資源としての位置づけが各地で行われている。このことは近年だけのことではないが、特に近年の文化財の活用という施策の一環で観光との結びつけが加速し、祭り・芸能のメディア公開なども活発化している。民俗学においても、たとえば『旅と伝説』などは、学術誌としての内容をもつ一方、ツーリズムの促進の渦中にあった雑誌であったといえよう。

本シンポジウムにおいては、こうした論点を提案することで、祭り・芸能をめぐる現代的課題を提示し、現代民俗学が祭り・芸能と関わるべき視点の深化を念頭に議論を進めたい。

# 南信州における女性参加の実情と課題

櫻井弘人（長野県／國學院大學文学部兼任講師）

## 1. はじめに

今回の発表では、南信州（長野県南端、飯田・下伊那地方を中心とした伊那谷南部）における女性参加の実情を報告し、その課題について考えたい。

当地方は、「民俗芸能の宝庫」と称されるように、霜月神楽やオコナイ、盆の風流踊りといった近世初期以前にさかのぼる宗教色の強い民俗芸能や、人形芝居や歌舞伎、獅子舞、そして煙火といった近世中期以降の娯楽色の強い芸能など、多種多様な民俗芸能が濃密に伝承されている。先の近世初期以前の神事芸能はもちろん、後者の近世中期以降の娯楽芸能であっても、基本的に男性によって担われてきた。とくに前者の霜月神楽やオコナイにおいてはブク（死喪）や四つ足（肉食）禁忌などとともに女性の参加を厳しく避けてきた。しかし、近年になって一部に女性の参加がみられる。以下の9つの事例を取り上げて、その実情を紹介する。

①坂部の冬祭、②向方のお潔め祭、③④遠山の霜月祭（以上、霜月神楽）、⑤新野の雪祭（オコナイ）、⑥下山の獅子舞、⑦飯沼諏訪神社の獅子舞、⑧下清内路の手づくり煙火、⑨黒田人形。あわせて、愛知県東栄町御園の花祭（霜月神楽）の事例にも触れる。

## 2. 女性参加の実情と要因

女性参加の事例は確かにあるが、いまだ多くは男性のみで担われている。女性の関与は賄いなど芸能以外が多く、芸能への参加は、人形芝居や歌舞伎などの舞台芸能（⑨）をのぞけば、笛の演奏などに限られる（⑤⑥⑦）。とくに神事に加わったり面を着けたり獅子頭を扱うなどは、いまだ男性によって担われる（①③④）。例外として女性が湯立や舞（①）さらに面形舞に参加する事例（④）があるが、ともに神職の有資格者であるなど特殊な例といえる。

そうしたなか、地域内での女性参加の契機として、後継者育成をめざす芸能保存団体による子どもへの継承事業（③⑤⑥⑨）と、学校教育のなかで地域文化の学習として取り組み（③⑤）がある。いずれも、女兒・女生徒も含めた形で展開された。なかには、本祭りにおいても「余興」的な扱いとして女生徒の参加を認めるところが出てきた（③）。これにより、子どもの参加を見守り付きそうPTA、とくに母親の関心と参加意欲の高まりがあり、周囲の男性の抵抗も弱まってきたようである。

一方、都市で生まれ育った女性たちの中にも、地域でおこなわれる伝統文化に関心を寄せる者が現れ、後継者不足を補うためにその参加を受け入れたところがある（②）。

## 3. 女性参加の課題と今後

女性参加をめぐる課題としては、(1)神事性の担保(継承)をどうするか、(2)従来からの方式の保持とその変革、(3)後継者確保、(4)芸能の技量の維持、(5)芸能内容(分担)に対する男女の適応度、(6)参加者層の拡大による賑わいの創出、などがある。(1)(2)は世代間格差が大きく、(3)は地区による柔軟度に差があり((1)(2)とも関連する。歴史的にみても女性参加を忌むようになったのはそれほど古いことではなく、その理由とされた血の穢れという意識も現在ではほとんど意識されてはいない。多くは(2)の問題である。現在、女性参加を受け入れているところは(3)(6)の理由による。また、笛の演奏が多いのも(5)の理由、すなわち若い女性の方が技能の習得が早い傾向がある点が影響しているよう。

日本全国の例にもれず、南信州でも人口減少が進んで地域社会そのものの存続が危ぶまれるようになるなか、民俗芸能は地域住民の絆を深め、他との交流もうながし、地域のアイデンティティの一つの核ともなり得る。伝統を崩さずに守り抜くという気概が大きき力になる一方、女性参加による地域全体に盛り上がるメリットは決して小さいとはいえないだろう。しかし、実際に女性参加をどうするかは当事者が決めることなので、研究者としては、共通理解として把握できた各地の実情の情報を提供することが求められるのではなかろうか。

## 祭りのなかの「子どもの祭り」

石垣 悟（千葉県／國學院大學観光まちづくり学部准教授）

ここで話題とするのは、大人が主体となっていて行っている「通常」の祭り・芸能と並行しつつも（あるいはそこに含まれつつも）、同時にそれとは別に子どもが主体となっていて行っている祭り・芸能である。各地の祭り・芸能を見ていくと、こうした事例は意外に多い。そのルーツは、大きく2つある。1つは、幕末から明治・大正に祭り・芸能の規模を大きくする中で、古いもの／小さいものを子ども用に「払い下げた」パターンである。もう1つは、明治以降、特に戦後、何らかの意図をもって子ども主体の祭り・芸能を作ったパターンである。両者はルーツを異にするが、どちらも「通常」の祭り・芸能と並行しながら行われている。にもかかわらず、これまで「通常」の付属（あるいは「本体」に対する「紛い物」としてあまり注目されてこなかった。ここでは、このような子どもが主体となるミニバージョンの祭り・芸能を「ミニ祭り」と呼ぶこととし、話題の中心に据えてみたい。

取り上げる事例は、静岡県掛川市横須賀（旧大須賀町）で行われる春と秋の祭礼である。横須賀の総鎮守ともいべき三熊野神社の毎年4月の春祭りでは、江戸時代後期より旧横須賀城下13町から大人主体の祢里（ねり：山車のこと）が曳き出されてきた。これが「通常」である。と同時に各町内にある神社の秋祭りでは、子ども主体の祢里が曳き出される。その名も「ちい祢里」。その起源は詳らかではないが、戦前にはすでにみられたことがわかっており、物理的大きさを別とすれば、「通常」の祢里に引けを取らない本格的なものである。そのためか、横須賀周辺の集落には、大人たちがこの「ちい祢里」を借用し、集落内の神社の秋祭りで曳きだすところもあった。

ここでは、この決して子どもだましではない「ちい祢里」の出るミニ祭りの歴史と現状を整理し、そのうえで、子どもたちがミニ祭りを責任もって担うことが、「通常」の祭り・芸能にどのような影響を与えているのか、あるいは地域社会の中でどのような意味をもっているのか、といった点を考えてみたい。なお、現在、御多分に漏れず横須賀の各町内も少子化が進んでいる。従って、ミニ祭り自体の継続・継承も危機を迎えつつある。保護者などの協力によって継続・継承されている面も否定できない。そうした点にも留意しながら検討を行う。

各地の祭り・芸能をつぶさにみていくと、実はミニ祭りはあちこちにある。しかし、従来の調査では祭り・芸能／文化財の「本体」ではないとして対象外とされるか、調査されても存在が記される程度であった。この点も課題として言及したい。



## 祭り・イベント・芸能とツーリズム

矢島妙子（東京都／明治大学 法と社会科学研究所 客員研究員）

「祭り」は地域の活性化となり、それを目的の観光は、定住人口から交流人口、観光客をも引き込んでいる。しかし、昨今、日本は、人口減少や少子高齢化が顕著となり、「祭り」の中には、後継者の不在や不足、資金不足等に陥り、存続を危ぶまれるものも出てきた。

沖縄久高島は沖縄本島の東南端にある離島で、琉球王府のある首里の東に位置することから、「ニライカナイ」の神々が最初に降り立つ島として神聖視されてきた。周囲8km、半農半漁の島で、年中行事も多い。「男は海人、女は神人」と言われる。人口は、かつては600人ほどいたが、今は200人ほどである。遊泳できる浜もあり、島独特の思想を感じながら自然も楽しめる。

島では、「イラブー」というウミヘビの漁・燻製作りが行われている。イラブーは、海の向こうからもたらされたカミからの贈り物「ユイムン」とみなされている。よって、このウミヘビは毒を持っているが、道具は使わずに素手で捕まえる。イラブーの燻製は、かつては首里の王府に献上してきたもので、琉球王国消滅後も続けられた。元々は、久高ノロと呼ばれる、島最高の司祭主のひとりの家の特権であった。後述の「イザイホー」の祭りが中断すると一度途絶えたが、その後、復活している。今では、他の住民や男性も関わる。イラブーの燻製は滋養の効果があるものとして、沖縄本土では高値で取り引きされている。観光客もイラブー漁・燻製作りを、制限はあるものを見ることができ、イラブー汁を味わうこともできる。

「イザイホー」は、12年に一度の午年・旧暦の11月15日から4日間行われる儀式である。この島の30歳から70歳の女性は神事に関わる習わしがある。イザイホーは、来訪神を迎え、新しいナンチュ（神女）を神に認めてもらい、島から去る神々を送るもので、600年の歴史があると言われている。司祭主のノロのもとで、新しいナンチュの資格づけ、他の女性全員の更新儀礼の意味もある厳粛な神事である。祭りの前日には、村人総出で茂った木々を払って広場を作り、七つ屋という小屋を建て、屋根を葺く。白砂を撒き、クパの葉で小屋を目隠しする。女性たちは白い衣裳に身を包み、30歳から41歳までの女性は七つ屋に籠る。外では、他の女性たちによって、「神遊び」として、「ユクネーガミアシビ」（夕神遊び）「朱リキアシビ」（朱づけ遊び）等の儀式が行われ、終盤には、村の成人男性と神女が向かい合ってアrikヤーと呼ばれる綱を揺らし合う。これは航海を意味している。イザイホー4日間の中で最も華やかなのは、「グキマーイ」（御家回い）で、極彩色の神扇を使って、唄い、踊る。あとは後片付け、祝宴、翌朝の終了祝いとなる。

あくまでも神事で見せ物ではないからと、長い間、島外の人間には公開されていなかった。1966年には岡本太郎が取材に来るなど撮影も許され、記録に残すことが重要視され始めた。1978年も実施され、研究者や観光客も多く訪れたが、1990年には司祭主が高齢で実施できず、現在も司祭主が不在のため、実施できていない。つまり、今のところ、1978年を最後に途絶えてしまっているのである。このことに対して、「芸能」として復活させようとする動きもある。「祭り」のイベント化である。特殊なものなので、観光客の増加も見込める。イザイホーは来訪神信仰で、日本の祭祀の原型を留めていると考えられ、残しておきたいものである。民俗は変わるもので、存続するためには変化していく必要がある。ただ、厳粛な神事であったものをイベント化していいものかは疑問である。なお、本発表では、イラブー漁・燻製作りの様子と、1978年のイザイホーの様子の映像の上映（一部）を予定している。

会場名 (教室名)	A (3307 教室)	B (3308 教室)	C (3309 教室)	D (3310 教室)	E (3301 教室)
9:30-9:55	A-1 《グループ発表》 民俗地図の理論と実践 ー長野県史民俗編資料 と GIS の活用ー	B-1 《グループ発表》 同業者集団の民俗学的 展開と課題	C-1 有馬絵美子 (小林力)	D-1 《課題②》 「死」をめぐる民俗 山村恭子 (武井基晃)	E-1 間所瑛史 (久保禎子)
10:00-10:25	安室知 臼井ひろみ 小原稔 三石稔 福澤昭司	岡田伊代 加藤紫識 高木大祐 阿部友紀	C-2 加藤日子 (小林力)	D-2 《課題②》 「死」をめぐる民俗 川嶋麗華 (武井基晃)	E-2 余語琢磨 (久保禎子)
10:30-10:55			C-3 後藤康人 (小林力)	D-3 《課題②》 「死」をめぐる民俗 牛窪彩絢 (武井基晃)	E-3 平井優香 (久保禎子)
11:00-11:25			C-4 伊賀みどり (安井真奈美)	D-4 加藤正春 (問芝志保)	E-4 佐崎愛 (神かほり)
11:30-11:55			C-5 伏見裕子 (安井真奈美)	D-5 堂本直貴 (問芝志保)	E-5 星洋和 (神かほり)
休憩					
13:00-13:25	A-2 森内こゆき (岩崎真幸)	B-2 森本安紀 (吉田扶希子)	C-6 鬼頭慈都 (田口祐子)	D-6 山本紗綾 (佐藤優)	E-6 本林靖久 (宮田妙子)
13:30-13:55	A-3 岡安裕介 (岩崎真幸)	B-3 竹内麻耶華 (吉田扶希子)	C-7 道前美佐緒 (田口祐子)	D-7 福澤光稀 (佐藤優)	E-7 榎本直樹 (宮田妙子)
14:00-14:25	A-4 《課題① 列島文 化をどうとらえるか》 岩瀬春奈 (橋本章)	B-4 《課題③》 現代世相と民俗》 近藤貞祐 (柏木亨介)	C-8 鈴木一彌 (板橋春夫)	D-8 《グループ発表》 生きられた文化のとら え方ーだんだん楽しく なるヴァナキュラー研 究  川田牧人 加藤幸治 俵木悟 菅豊	E-8 徐梓淇 (渡邊欣雄)
14:30-14:55	A-5 《課題① 列島文 化をどうとらえるか》 後藤麻衣子 (橋本章)	B-5 《課題③》 現代世相と民俗》 由谷裕哉 (柏木亨介)	C-9 堀田奈穂 (板橋春夫)		E-9 唐冕 (渡邊欣雄)
15:00-15:25	A-6 《課題① 列島文 化をどうとらえるか》 黒田一充 (佐野賢治)	B-6 《課題③》 現代世相と民俗》 鈴木明子 (倉石美都)	C-10 松尾有起 (中込睦子)		E-10 阿南透 (渡邊欣雄)
15:30-15:55	A-7 《課題① 列島文 化をどうとらえるか》 川野和昭 (佐野賢治)	B-7 《課題③》 現代世相と民俗》 内田忠賢 (倉石美都)	C-11 福西大輔 (中込睦子)		

会場名 (教室名)	F (3302 教室)	G (3303 教室)	H (3401 教室)	I (3402 教室)	J (3403 教室)
9:30-9:55	F-1 《グループ発表》 俗信 2-継続・架橋する俗信研究	G-1 渡部鮎美 (小早川道子)	H-1 呉珂 (中野佳枝)	I-1 岸本昌良 (有本尚央)	J-1 関口知誠 (今野大輔)
10:00-10:25	吉村風 永島大輝 三津山智香 中町泰子	G-2 畑山綾 (小早川道子)	H-2 角南聡一郎 (中野佳枝)	I-2 立柳聡 (有本尚央)	J-2 工藤沙希 (今野大輔)
10:30-10:55		G-3 竹田圭乃 (小早川道子)	H-3 相良悦子 (中野佳枝)	I-3 金城ハウプトマン朱美 (法橋量)	J-3 平井芽阿里 (今野大輔)
11:00-11:25		G-4 瀬川涉 (渡邊三四一)	H-4 乾賢太郎 (荻野裕子)	I-4 潘咏雪 (法橋量)	J-4 福寛美 (山本芳美)
11:30-11:55		G-5 于子源 (渡邊三四一)	H-5 井上卓哉 (荻野裕子)		J-5 伊藤ひろみ (山本芳美)
休憩					
13:00-13:25	F-2 北村規子 (松田香代子)	G-6 樋田竜男 (荒井浩幸)	H-6 中葉博文 (松田睦彦)	I-5 押見皓介 (廣田龍平)	J-6 久留ひろみ (町健次郎)
13:30-13:55	F-3 政岡伸洋 (松田香代子)	G-7 青木涼悟 (荒井浩幸)	H-7 浅川泰宏 (松田睦彦)	I-6 福司知代 (廣田龍平)	J-7 齋藤正憲 (町健次郎)
14:00-14:25	F-4 真保元 (武士田忠)	G-8 角谷彩子 (古川実)	H-8 坂爪裕 (塚原伸治)	I-7 三好周平 (廣田龍平)	J-8 川西彩夏 (町健次郎)
14:30-14:55	F-5 樽井由紀 (武士田忠)	G-9 三隅貴史 (古川実)	H-9 余瑋 (塚原伸治)	I-8 川津寧々 (島村恭則)	J-9 辻本侑生 (松村薫子)
15:00-15:25	F-6 小池淳一 (武士田忠)	G-10 伊藤早穂子 (松崎かおり)	H-10 荒木生 (桑山敬己)	I-9 小林兆太 (島村恭則)	J-10 才津祐美子 (松村薫子)
15:30-15:55		G-11 市川秀之 (松崎かおり)	H-11 上杉富之 (桑山敬己)	I-10 関一敏 (島村恭則)	J-11 川村清志 (松村薫子)

会場名 (教室名)	K (3404 教室)	L (3405 教室)
9:30-9:55	K-1 出口雅敏 (菅根幸裕)	L-1 村田典生 (岩鼻通明)
10:00-10:25	K-2 田中きよむ (菅根幸裕)	L-2 玉水洋匡 (岩鼻通明)
10:30-10:55	K-3 金田久璋 (菅根幸裕)	L-3 松本美虹 (萩谷良太)
11:00-11:25	K-4 村尾美江 (鈴木由利子)	L-4 岸澤美希 (萩谷良太)
11:30-11:55	K-5 原英子 (鈴木由利子)	L-5 竹中宏子 (萩谷良太)
休憩		
13:00-13:25	K-6 佐々木一成 (原島知子)	L-6 松尾あずさ (石川俊介)
13:30-13:55	K-7 岡本潔和 (原島知子)	L-7 村上紀夫 (石川俊介)
14:00-14:25	K-8 《課題④ 地域史と文化財》 檜村賢二 (加藤隆志)	L-8 越智みや子 (石川俊介)
14:30-14:55	K-9 《課題④ 地域史と文化財》 川出康博 (加藤隆志)	L-9 伊東久之 (坂本要)
15:00-15:25	K-10 《課題④ 地域史と文化財》 清水博之 (加藤隆志)	L-10 伊藤純 (坂本要)
15:30-15:55		

## ■ A会場

A-1 9:30~11:25 《グループ発表》民俗地図の理論と実践—長野県史民俗編資料とGISの活用—  
代表 福澤昭司（長野県民俗の会）

安室知（長野県民俗の会）  
方法としての民俗地図

白井ひろみ（長野県民俗の会）  
盆の供え物のウマ、ウシ分布から地域性を考える

小原稔（長野県民俗の会）  
大正から昭和初期における長野県の豊蚕祈願について

三石稔（長野県民俗の会）  
自然石道祖神分布域を地質から解く

福澤昭司（長野県民俗の会）  
後産（胞衣）しまつの場所とその意味

### 昼食休憩

A-2 13:00~13:25 森内こゆき（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程4回／椎葉民俗芸能博物館学芸員）  
宮崎県椎葉村における水神儀礼からみる山の暮らし  
—九州山地における河童・水神伝承の比較研究—

A-3 13:30~13:55 岡安裕介（京都大学）  
まれびと考—ハヤマ信仰を手がかりに—

A-4 14:00~14:25 《課題セッション①》列島文化をどうとらえるか 岩瀬春奈（新潟県立歴史博物館）  
歴史と民俗からみる憑物習俗

A-5 14:30~14:55 《課題セッション①》列島文化をどうとらえるか 後藤麻衣子（千葉県）  
福島県会津地方におけるサイノカミの特色

A-6 15:00~15:25 《課題セッション①》列島文化をどうとらえるか 黒田一充（関西大学文学部）  
九州地方における浜下りの聖地 —浜殿を中心に—

A-7 15:30~15:55 《課題セッション①》列島文化をどうとらえるか 川野和昭（鹿児島県）  
天照大御神は稲の母—ラオス北部の稲作神話との比較から—

## ■ B会場

B-1 9:30~11:25 《グループ発表》同業者集団の民俗学的展開と課題  
代表 加藤紫識（東京都）

岡田伊代（東京都）  
皮革産業協同組合における伝承

加藤紫識（東京都）  
製畳組合における同業神信仰

高木大祐（神奈川県）  
産業組合と産業祭・道具供養・職祖信仰

阿部友紀（宮城県）  
善宝寺龍王講と漁業協同組合

### 昼食休憩

B-2 13:00~13:25 森本安紀（滋賀県立大学）  
鶴市傘鉾神事における重層性

B-3 13:30~13:55 竹内麻耶華（名古屋大学大学院）  
尾張の妙見信仰—春日井市内津地域の事例を中心に—

B-4 14:00~14:25 《課題セッション③》現代世相と民俗 近藤貞祐（國學院大學大学院）  
棚田で行われる虫送り—現代における虫送り行事の伝承と観光展開の諸相—

B-5 14:30~14:55 《課題セッション③》現代世相と民俗 由谷裕哉（金沢大学客員研究員）  
大洗磯前神社軍艦那珂慰霊祭の例から考える「現代科学といふこと」

B-6 15:00~15:25 《課題セッション③》現代世相と民俗 鈴木明子（國學院大學文学部兼任講師・中央大学法学部兼任講師）  
家族をめぐる物語—声なきものの声—共同親権への民法改正を求めて—

B-7 15:30~15:55 《課題セッション③》現代世相と民俗 内田忠賢（せとうち観光専門職短大）  
民俗学と風俗学、そして現代風俗研究会

## ■C会場

- C-1 9:30~9:55 有馬絵美子（神奈川大学大学院 歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程）  
民俗自然誌における雪国の気候認識-秋山郷での生活暦と農作業日誌の検討から-
- C-2 10:00~10:25 加藤日子（筑波大学人文・文化学群比較文化学類）  
虫送りに関する虫-東横田の虫送りを事例に-
- C-3 10:30~10:55 後藤康人（えどがわ生物懇話会）  
国内なのに外来という厄介〜八丈島のアズマヒキガエル対策を事例に〜
- C-4 11:00~11:25 伊賀みどり（帝京平成大学非常勤講師）  
出産の民俗学-開業助産婦のライフヒストリーを書く-
- C-5 11:30~11:55 伏見裕子（近畿大学）  
戦後の婦人雑誌にみる帝王切開 -女性の語りと医師の見解の変容-

### 昼食休憩

- C-6 13:00~13:25 鬼頭慈都（同朋大学仏教文化研究所）  
子授かりの信仰とムラの寺-尾張西部の事例から-
- C-7 13:30~13:55 道前美佐緒（流通科学大学）  
戦略と戦術の民俗誌-現代日本の婚姻儀礼をめぐって
- C-8 14:00~14:25 鈴木一彌（総合研究大学院大学研究生）  
近代における婚礼儀礼の変容-盃事に注目して-
- C-9 14:30~14:55 堀田奈穂（関西学院大学大学院）  
「心なおし」としての「装い」
- C-10 15:00~15:25 松尾有起（せとうち観光専門職短期大学）  
子守唄の誕生-「島原の子守唄」にまつわる実践と表象の形成-
- C-11 15:30~15:55 福西大輔（大分県）  
唐松講の成立とその展開に関する一考察

## ■ D会場

- D-1 9:30~9:55 《課題セッション②》「死」をめぐる民俗 山村恭子（館山市立博物館）  
「死」の資料を収集する—地域博物館における葬送儀礼の展示—
- D-2 10:00~10:25 《課題セッション②》「死」をめぐる民俗 川嶋麗華（國學院大學）  
地域の葬儀を支える助葬事業の実践—小笠原村社会福祉協議会の活動を事例として—
- D-3 10:30~10:55 《課題セッション②》「死」をめぐる民俗 牛窪彩絢（東京大学/日本学術振興会特別研究員(DC2)）  
沖縄の墓を巡る行政の現在—各市の「墓地基本計画」を中心に—
- D-4 11:00~11:25 加藤正春（本会会員）  
骨の絆から血の絆へ:「家永続の願ひ」にみる柳田國男の視座の転換
- D-5 11:30~11:55 堂本直貴（奈良県/京都大学大学院文学研究科）  
いかにして民俗の変容はひとびとに受け入れられていくのか  
—大阪市内における精霊流しの歴史を事例として—

### 昼食休憩

- D-6 13:00~13:25 山本紗綾（國學院大學大学院文学研究科）  
岡山県「新町地蔵踊り」についての—考察—地蔵祭祀と芸能—
- D-7 13:30~13:55 福澤光稀（山形県）  
近代の祭礼の特徴と展開—山形県山形市の場合—
- D-8 14:00~15:55 《グループ発表》生きられた文化のとらえ方  
—だんだん楽しくなるヴァナキュラー研究  
代表 菅豊（東京大学東洋文化研究所）

川田牧人（成城大学文芸学部）

寄席をはじめました—奄美・素人演芸（余興）の自生的展開

加藤幸治（武蔵野美術大学）

こけし as it is lived —マージナルな工芸における伝統と創作

俵木悟（成城大学文芸学部）

これが私の走る道—自転車からみる路上の秩序

菅豊（東京大学東洋文化研究所）

祈りを折る—新型コロナウイルス感染症パンデミック期の折り鶴からみたマテリアリティとヴァナキュラー宗教

## ■ E会場

- E - 1 9:30~9:55 間所瑛史 (茨城県)  
小絵馬コレクションと戦後日本における絵馬収集趣味
- E - 2 10:00~10:25 余語琢磨 (早稲田大学 人間科学学術院)  
都市工芸・京焼における近代—職人から職工へ—
- E - 3 10:30~10:55 平井優香 (國學院大學大学院文学研究科 博士前期課程)  
羽子板のモチーフと贈答習俗—「藤娘」像に注目して—
- E - 4 11:00~11:25 佐崎愛 (東北大学)  
遺影に代わるイコン—一族運営がもたらす遠野ハリストス正教会の独自性
- E - 5 11:30~11:55 星洋和 (福島県)  
戦前の郷土玩具ブームと福島県

### 昼食休憩

- E - 6 13:00~13:25 本林靖久 (大谷大学)  
能登の真宗門徒のアエノコトをめぐる一考察
- E - 7 13:30~13:55 榎本直樹 (埼玉)  
正月の供物・食物としての吸物と雑煮—埼玉・東京多摩の事例から—
- E - 8 14:00~14:25 徐梓淇 (神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究科博士後期)  
現代中国の招き猫研究：商売における日本文化の表現とその変遷
- E - 9 14:30~14:55 唐冕 (東京大学博士課程)  
別荘の内装における「誇示」と「抑制」：現代中国社会の分断化と確実ではない富
- E - 10 15:00~15:25 阿南透 (江戸川大学)  
祭礼における「灯籠絵」とその利用  
—富山県南砺市「福野夜高祭」における武者絵の事例—

## ■ F会場

### F - 1 9:30~11:25 《グループ発表》 俗信 2—継続・架橋する俗信研究

代表 吉村風（国立国会図書館）

吉村風（国立国会図書館）

テキストマイニングによる俗信の編年（Folk beliefs chronology）の可否について

永島大輝（栃木県）

造形される俗信

三津山智香（茨城県）

不幸はダレのせいなのか

中町泰子（神奈川大学非常勤講師）

高島嘉右衛門の兆と占

コメンテーター 常光徹

### 昼食休憩

### F - 2 13:00~13:25 北村規子（東京都）

津波の語り—津波石の表象するもの—

### F - 3 13:30~13:55 政岡伸洋（東北学院大学）

災害の記憶の継承とその活用—和歌山県白浜町富田地区の場合—

### F - 4 14:00~14:25 真保元（成城大学大学院博士課程後期）

鉄道忌避伝説再考—南武線を事例に—

### F - 5 14:30~14:55 樽井由紀（奈良女子大学）

温泉と新しい観光化—温泉民俗学の視点から

### F - 6 15:00~15:25 小池淳一（東京都）

干支と説話—陰陽道の伝承形成—

## ■G会場

- G-1 9:30~9:55 渡部鮎美（青森公立大学）  
漁業者と海の環境問題—長崎県五島市玉之浦地区の磯焼け対策を中心に—
- G-2 10:30~10:55 畑山綾（筑波大学人文・文化学群比較文化学類）  
海と陸におけるジンベエザメ：漁業と供養を事例にして
- G-3 10:30~10:55 竹田圭乃（滋賀県立大学大学院）  
開発に伴う魚類供養
- G-4 11:00~11:25 瀬川渉（横須賀市自然・人文博物館）  
対馬と壱岐における短銃型イソガネの変容
- G-5 11:30~11:55 于子源（筑波大学人文社会科学研究群）  
食料生産活動と食文化の関係—中国広東省順徳の淡水魚捕獲活動と魚食文化に着目して—

### 昼食休憩

- G-6 13:00~13:25 樋田竜男（たかやまそふと）  
有翼日輪とハロ：他界観に伴う鳥や船を例として
- G-7 13:30~13:55 青木涼悟（明治学院高校）  
近代における稲荷信仰—戦前戦後のメディアに見る初午祭の事例から—
- G-8 14:00~14:25 角谷彩子（文化学園大学）  
「翁」を中心とした衣装の比較調査—長野県の式三番叟—
- G-9 14:30~14:55 三隅貴史（関西学院大学）  
地域外参加者による逸脱と制御—青森ねぶた祭を事例として—
- G-10 15:00~15:25 伊藤早穂子（新潟大学大学院 現代社会文化研究科）  
共有地の移転登記にみる現代のコモンズ—長野県下水内郡栄村を事例に—
- G-11 15:30~15:55 市川秀之（滋賀県立大学）  
甲賀市多羅尾における当屋制の歴史的変遷

## ■ H会場

- H-1 9:30~9:55 呉珂（神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科）  
大山講の現在—先導師（御師）離れと参詣の変容—
- H-2 10:00~10:25 角南聡一郎（神奈川県）  
東西仏教民俗学考—その源流に関する検討—
- H-3 10:30~10:55 相良悦子（山口大学大学院生）  
修験者が回檀で用いた薬について—近世後期における相模大山の事例をもとに—
- H-4 11:00~11:25 乾賢太郎（大田区立郷土博物館）  
神奈川県における木曾御嶽講の展開—現存する石造物の調査をとおして—
- H-5 11:30~11:55 井上卓哉（静岡県富士山世界遺産センター）  
富士山御殿場口の旅館宿帳からみる大正・昭和初期の登山者の動向

### 昼食休憩

- H-6 13:00~13:25 中葉博文（富山県立福岡高校非常勤講師）  
柳田國男の「和州地名談」と大和地名研究所（後に日本地名学研究所に）  
—昭和10年代~同30年代後半までの日本の地名研究に注目して—
- H-7 13:30~13:55 浅川泰宏（埼玉県立大学）  
教養教育としての民俗学：保健医療福祉系大学での実践から
- H-8 14:00~14:25 坂爪裕（慶應義塾大学大学院経営管理研究科）  
春の煤払いの日の変遷—多摩地域における近世・近代農家の日誌の分析—
- H-9 14:30~14:55 余璋（神奈川大学大学院博士後期課程）  
中国民俗学の学史研究—1980年代以降を中心に—
- H-10 15:00~15:25 荒木生（成城大学大学院 文学研究科 日本常民文化専攻 博士課程後期）  
すでにある多文化共生社会—在日ベトナム寺院「大恩寺」の事例から—
- H-11 15:30~15:55 上杉富之（成城大学）  
ベトナム寺院・大恩寺に見る「多文化共生民俗」の生成と創出

## ■ I 会場

- I - 1 9:30~9:55 岸本昌良 (日本国民)  
日本の工場とふいご祭り
- I - 2 10:00~10:25 立柳聡 (福島県立医科大学)  
立ち飲み屋の流儀
- I - 3 10:30~10:55 金城ハウプトマン朱美 (富山県立大学)  
AI時代における声と「語り」の継承について
- I - 4 11:00~11:25 潘咏雪 (筑波大学大学院)  
世間話研究と聞き書き現場の民俗誌実践  
—宮城県加美町における獣害に関する語りの試み—

### 昼食休憩

- I - 5 13:00~13:25 押見皓介 (成城大学大学院 文学研究科博士課程後期)  
ネットロアの異なる言語圏への展開
- I - 6 13:30~13:55 福司知代  
現代の住居に出現する怪異について
- I - 7 14:00~14:25 三好周平 (三原市)  
記録に残された謎の蛇—三原市歴史民俗資料館所蔵資料より—
- I - 8 14:30~14:55 川津寧々 (國學院大學)  
見世物小屋の大詰め—なぜ続いてきたのか、なぜ消えて行くのか—
- I - 9 15:00~15:25 小林兆太 (高知県歴史文化財課県史編さん室)  
クモを闘わせる遊びにおける技術の変化とその要因について  
—鹿児島県と高知県の事例から—
- I - 10 15:30~15:55 関一敏  
しあわせの民俗誌—福博篇—

## ■ J会場

- J - 1 9:30~9:55 関口知誠（明治大学島嶼文化研究所客員研究員）  
戦後日本と戦後琉球における青年集団比較研究序説
- J - 2 10:00~10:25 工藤沙希（関西学院大学大学院／コクヨ株式会社 ヨコク研究所）  
トウシビーから合同生年祝へ  
— 沖縄の同齡意識にみる「横のつながりの民俗学」に向けた試論 —
- J - 3 10:30~10:55 平井芽阿里（中部大学）  
変えてはならないものをいかに変えうるのか  
— 沖縄宮古島西原の村落祭祀にみる「正当化の論理」 —
- J - 4 11:00~11:25 福寛美（法政大学沖縄文化研究所）  
ユタの神歌の始原世界について—奄美の「バサンナガレ」を中心に—
- J - 5 11:30~11:55 伊藤ひろみ（愛知大学国際問題研究所客員研究員）  
カシキーヂナ（カシキー綱）とシチグァチヂナ（七月綱）をたどって  
— 沖縄平安座島・渡名喜島・八重瀬町を調査地として —
- 昼食休憩
- J - 6 13:00~13:25 久留ひろみ（NPO 奄美食育食文化プロジェクト理事長・博士（学術））  
水儀礼の民俗学的研究—奄美のショージ儀礼からみた水の力
- J - 7 13:30~13:55 齋藤正憲（白鷗大学）  
神高いシマ：奄美大和村・名音集落の民俗誌
- J - 8 14:00~14:25 川西彩夏（関西学院大学大学院）  
神霊の去来と風の伝承—奄美・沖縄の事例を中心に—
- J - 9 14:30~14:55 辻本侑生（静岡県）  
同性カップルと親戚つきあい  
— 民俗学の家族・親族研究とクィア・スタディーズの接合に向けて —
- J - 10 15:00~15:25 才津祐美子（長崎大学）  
シスターが仕掛ける地域おこし—お告げのマリア修道会による文化遺産継承の新たな試み—
- J - 11 15:30~15:55 川村清志（国立歴史民俗博物館）  
連詩が紡ぐモノと記憶の共在—第3回奥能登国際芸術祭のワークショップから—

## ■ K会場

- K-1 9:30~9:55 出口雅敏（東京都／東京学芸大学）  
公募制の民俗行事と継承問題—山形県上山市「加勢鳥」の場合—
- K-2 10:00~10:25 田中きよむ（高知県立大学）  
地方の過疎化と伝統文化の継承—地域住民と学生の関係性に着目して—
- K-3 10:30~10:55 金田久璋（日本地名研究所）  
新興の「民俗」と伝統文化の保存
- K-4 11:00~11:25 村尾美江（香川県）  
敗戦でGHQにより否定された「国民礼法」の影響
- K-5 11:30~11:55 原英子（岩手県立大学）  
民俗学で戦争を考える2 —戦争に行かなかった従軍看護婦—

### 昼食休憩

- K-6 13:00~13:25 佐々木一成（佛教大学大学院）  
反骨的郷土史の実践—富山県南砺市平郷土学習会の事例から—
- K-7 13:30~13:55 岡本潔和（佛教大学大学院）  
来訪神行事の変容とその要因—能登地方のアマメハギを事例として—
- K-8 14:00~14:25 《課題セッション④》地域史と文化財 樫村賢二（鳥取県立博物館）  
新鳥取県史編さん事業における民俗編・民具編刊行と文化財指定
- K-9 14:30~14:55 《課題セッション④》地域史と文化財 川出康博（愛知県）  
警固祭りにおける鉄砲隊について—長久手市岩作のオマントを中心に—
- K-10 15:00~15:25 《課題セッション④》地域史と文化財 清水博之（茨城キリスト教大学）  
祭り・行事の本質と変容—富山県の山・鉾・屋台行事を事例として—

## ■ L 会場

- L - 1 9:30~9:55 村田典生 (佛教大学)  
病を治す人神—秋山自雲とその死因—
- L - 2 10:00~10:25 玉水洋匡 (学習院中等科)  
神格化された松尾芭蕉—祭神として祀る社と神号を刻んだ碑—
- L - 3 10:30~10:55 松本美虹 (五木村教育委員会)  
「龍勢」を奉納する流派のあり方—埼玉県皆野町の白雲流を事例に—
- L - 4 11:00~11:25 岸澤美希  
民俗行事を継続するための変化—埼玉県東松山市 上野本の獅子舞を事例に—
- L - 5 11:30~11:55 竹中宏子 (東京／早稲田大学)  
多世代交流に向けた民俗芸能の活用：スペイン・カタルーニャの「人間の塔」の導入

### 昼食休憩

- L - 6 13:00~13:25 松尾あずさ (東京都)  
「武蔵国一之宮」の誇りとその維持—東京都多摩市—ノ宮小野神社を事例として—
- L - 7 13:30~13:55 村上紀夫  
上御霊祭還幸祭における牛車—近世京都の祭礼と朝廷—
- L - 8 14:00~14:25 越智みや子 (大阪府)  
宇治あがた祭りの祭祀組織について
- L - 9 14:30~14:55 伊東久之 (岐阜大学)  
御輿・神輿類の系譜的分類試論—蓋と蕨手との構造に注目して—
- L - 10 15:00~15:25 伊藤純 (川村学園女子大学)  
知識の秘匿と伝統の明示—「天下一関白流」の創出と系譜意識の形成における巻物と額—

## 日本民俗学会第76回年会実行委員会

実行委員長 小川直之

事務局長 服部比呂美

事務局 飯倉義之 大楽和正

### 実行委員

伊藤純 伊藤新之輔 伊藤龍平 大道晴香 柏木亨介 川嶋麗華 小林稔 鈴木明子 高久舞  
宮内貴久 八木橋伸浩 山川志典

---

## 第76回年会実行委員会事務局

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

國學院大學文学部 1108 研究室気付

日本民俗学会第76回年会実行委員会事務局

e-mail: nenkai@fsjnet.jp

年会ウェブサイト: <https://www.nenkai76.fsjnet.jp/>

※お問い合わせはE-mailをご利用ください。

※要旨集は年会ウェブサイトにおいても公開します。

---

